

KOSEN の窓

私は昨年12月に高知県で行われた全国高専デザインコンペティション(通称・デザコン)の空間デザイン部門の本選に出場しました。高専といえばロボコンが有名ですが、デザコンは全国高専の建築系学生が競い合う大会です。

空間デザイン部門の今年度の課題は「あたりまえをRestart」です。地域に潜在しているあたりまえを発見し、自由な

発想と豊かなデザインで再スタートさせるといふものです。

私の作品は「さるきどころ」と題し、路地と高齢者住居に着目したものです。近年では、路地はただ歩くだけの機能しかもたないこと、高齢者施

いう意味があります。路地をさるくと、自然に高齢者との交流がもてるような路地コミュニティ空間、地域に寄り添うような高齢者の暮らしの場を提案しました。

まず事前の予備審査が行われ、全127作品の

全国高専デザイン コンペに出場して

有明高専専攻科建築学専攻1年 牛島 美夏

設は閉鎖的になりがちであること、また核家族化で高齢者と若い人たちの交流が減少していることがあたりまえとなつていきます。

「さるく」には、「何かをしながらかき回る」と

にはいかず、最後まで悩んだ作品でした。最優秀賞を頂くことができ、挑戦して本当によかったと思います。何よりも、先生方や友人、後輩の喜ぶ姿をみることで、うれしさがかみあげてきました。

来年度は後輩がまた有明高専を背負って頑張ってくれ

先生方、未



全国高専デザインコンペの表彰式にて